

街道を歩く

東海道静岡以東：13切通橋—大磯—平塚—馬入橋—茅ヶ崎市今宿

大磯宿 小田原宿から4里
本陣3、脇本陣0、問屋2、旅籠66。町並み12町52間
名物 鮫鱈料理鎌倉時代からの宿場町、その時の中心は化粧坂あたりという。
幕末と共に衰退したが明治18年陸軍軍医総監松本順が海水浴場を開き、明治20年には鉄道が開通すると政界、官界の富豪の別荘が建つようになり、リゾート化した。



高来神社
江戸時代まで高麗神社と呼ばれていた。神皇産霊神、瓊瓊杵尊、神功皇后、応神天皇が祀られている。伝承では神功皇后の三韓征討の武内宿禰が三韓の神を移したとも。高句麗からの渡来人高麗若光らが移り住んだとも云われる。



地福寺
承和4年(837)創建の寺。
慶長13年(1608)江戸で行われた浄土宗と日蓮宗の論争の聴衆13人の一人がここの住職という。
島崎藤村、妻静子ご夫婦の墓。
谷口吉郎博士設計(馬籠の藤村記念堂も)



島崎藤村旧宅
昭和16年1月、静養のため湯河原に行く途中友人の誘いで大磯の左義長見物に立寄り温暖なこの地を気に入り、開戦を前に「事変のため65歳以上は帝都を去れ」の布告を機会にここに移り住んだという。
昭和18年71歳で亡くなる2年余住む。



しぎたつあん
鴨立庵
小田原の医者外郎の子孫崇雪が西行の詠まれた「ころなき身にもあはれは知られけり 鴨立澤の秋の夕暮」に感動しここに庵を結ぶ。元禄の俳人大淀三千風が入庵してから知られる。現在は京都の落柿舎、滋賀の無名庵と共に3大俳諧道場の1つとされる。

要法寺 (日蓮宗)
弘安5年(1282)日蓮が身延山から江戸に向かう途中、この地の地頭、平塚左衛門尉泰知の館に泊まった。その時日蓮に傾倒した泰知が宅地寄進して開いた寺という。



延台寺
高麗山麓に住む山下長者は子供が無かったので虎池弁財天に祈ったところ、小さな石を授けられた。まもなく女の子が生まれた(虎御前)。石も大きくなった。虎御前はまもなく曾我十郎祐成と恋仲になる。ある時、仇敵工藤祐経が曾我十郎を襲った時、身代わりとなって救ったのがこの石という。曾我十郎、五郎兄弟が仇討ち後殺され、虎御前は兄弟の菩提を弔うべく尼となり庵を結んだのがこの延台寺。境内の法虎庵曾我堂にはその時の石が安置されている。虎御前は嘉禄3年(1227)55歳で亡くなったという。



法虎庵

平塚宿 大磯宿から27町
本陣1、脇本陣1、問屋2、旅籠54。町並み東西14町6間
大磯宿との距離は御油・赤坂の16町に次ぐ短距離。中原御殿と街道をつなぐために宿が置かれたものと思われる。御殿は明暦3年に廃止されている。

馬入りの渡し
寛永11年家光上洛の時は船橋。それ以外は渡船であった。



平塚の塚 (要法寺の西隣)
桓武天皇の3代子孫高見王の娘平政子(真砂子)東国への旅の途次、天安元年(857)この地で亡くなったので埋葬された。その塚がいつしか平になったのでいつしか「平塚」と呼ばれる。

[弥次・喜多] 大磯の虎ヶ石をみて虎御前が石になったと勘違いして「去りながら石になるとは無分別 ひとつ蓮のうへにや乗られぬ」

[弥次・喜多] 馬入川に来てなに川の間に北八、渡し場と答えるのみ「川の名を問へばわたしはとばかりにて入が馬入の人のあいさつ」

お菊の塚 (怪談「番町皿屋敷」の主人公)
お菊は平塚宿役人、真壁源右衛門の娘。江戸の旗本青山主膳に奉公していた時家宝の皿を紛失したため手討ちに遭った。この地に墓(センダンの木)があったが戦後立野町晴雲寺に移される。皿は主膳の家来がお菊に気を寄せたが、その気がないので皿を隠したという。皿はその後出てきた。(当時処刑者には墓が造れなかったという)

